

東京鰐陵

Tokyo Gakuryo

HP ● <http://www.gakuryou.com/>

発行 ● 東京鰐陵会 (石巻高等学校同窓会東京支部)
会長 木村貴則
発行所 ● 東京都荒川区町屋 7-19-5-312
早川誠方 東京鰐陵会事務所
TEL & FAX (03) 3809-0848
編集 ● 東京鰐陵編集委員会
振込み口座 ● 郵便振替口座番号 00180-4-350194
加入者名 東京鰐陵会
● 銀行口座 三井住友銀行 町屋支店
普通 6950841 東京鰐陵会会計早川誠



第24回東京鰐陵会総会開催

2015(平成27)年11月8日(日) 12:00~15:00 東海大学校友会館・望星の間(霞ヶ関ビル35階)。
毎年開催になって2年目、予想を上回る132名の参加者が集まり大盛況の中、恙無く行われた。



東京鰐陵会第24回総会・挨拶

「総会と併せて同期会を！」
さらなるご賛同と働きかけ期待

東京鰐陵会会長 木村貴則(33回生)

皆さん「こんにちは」。会長の33回生の木村貴則です。本日は生憎の天候の中をご参加頂きまして有難うございます。又日頃は会の運営にご指導ご鞭撻を賜りまして有難うございます。

今日の総会には、鰐陵同窓会本部から青木利光会長、須田事務局長、顧問の小玉校長先生にお出で頂きました。朝早くからの移動でお疲れ様でした。後ほど懇親会の時に改めてご紹介を致しましてご挨拶をいただきます。

さて、早いもので東日本大震災から4年8カ月を経過しました。このところようやく復興再建が形を成してきたことを感じます。3月24日には石巻線が女川まで延びました。5月30日には仙石線の高城町と矢本の間が繋がり、新たな東北仙石ラインの快速も走る様になりました。9月30日には石巻魚市場が全長880mという東洋一の規模で竣工しました。11月4日には新市街地6地区の「まちびらき」を新蛇田地区で開いております。宅地の整備や復興公営住宅は9月末現在で計画の半数近くが完成しているという報道があります。石巻市庁舎の隣には市立病院の建設が始まっていますが、8月に

見た時には3階部分まで鉄骨の骨組みが進んでいましたが、今はもっと進んでいるでしょう。平成28年9月には7階建ての病院が完成して治療を始めると聞いています。第22回総会で講演をいただいた石巻市長亀山絃様が、『単なる復興ではなく、『世界の復興モデル都市』を実現する』と熱く語っていたことが着々と実現に向かっていくことを感じております。

東京鰐陵会の総会を毎年開催すると決まりましたから、今年は2年目です。参加者が昨年は100名ほどで、今年はどうなるものかと不安でしたが、結果としては132名の参加登録を頂きました。その中で新たに参加者名札を45人分作りました。1/3強が初めての参加と言う結果になりました。役員一同安心したところです。案内状に同封して、前回の総会の様子を伝える広報紙『東京鰐陵』をお送りしていますが、今回の13号は12号よりも紙面数を大幅に増やし、新企画の記事も盛り込みました。その分経費が倍近く掛かったのですが、初めて130名台の参加者を得まして金を掛けた狙いが成功したと喜んでいます。毎年開催の総会と併せて同期会を開く

ことを提案していますが、これに賛同してくれまして、25回生、33回生、34回生、37回生、38回生が同期の仲間を誘ってくれまして、出席者名簿に有ります様に、同期生でテーブルを独占する状況が見られます。特に当番幹事回生の38回生は24名が参加で、仙台から5名、石巻から2名が参加してくれました。是非他の回生でも同期会の開催を働きかけて欲しいと思います。懇親会の2時間の時間帯の中に、1時間の『ご歓談・おしゃべりタイム』を設けました。舞台での演出を止めて、同期生での『おしゃべり』、中学校やクラブ活動での先輩後輩の歓談を楽しんで貰いたいと思います。テーブル毎の参加者の写真も今回は少ししなカメフラで、複数枚撮らせて貰いますのでご協力下さい。

昨年からの新たな企画として『米寿、喜寿を迎えられた方』を元気に参加された方を紹介し、健康を祝して記念品を差し上げる』という企画は今回も行います。今年米寿(88歳)を迎えられる方は18回生ですが、昨年は繰り上げで19回生の菅原さんをお祝いしました。今年は同じく菅原さんと村井さんがご参加なので、村井さんにお祝いの記念品を差し上げます。教え歳で祝う場合は19回生も対象になりますのでご了承下さい。喜寿(77歳)は29回生が相当します。ご出席の8名の方、早生まれとご連絡を頂いている28回生・小野寺康充さんの

9名の方をお祝いしたいと思えます。なお、昨年の米寿の挨拶をされた菅原さんから骨を丈夫にするのはビタミンDですよとご指摘を受けました。会報紙に載せた菅原さんの挨拶の転載で誤りが有りましたので訂正します。

欠席者からの運営資金の援助は、10月31日までに152名で656,000円となりました。20回生安住重一様から30万円のご援助を頂きました。ここに紹介して御礼に代えさせていただきます。私の年齢になりますと、大切なのは「教育と教養」であると言われます。教育とは「今日行く所、教養とは「今日の用事、のことです。来年の総会は11月13日の第2日曜日です。同じ場所、同じ時刻に

開催しますので、是非今の内に、来年の「教育と教養」を予定して下さい。第一部総会の議決は速やかに進みます。第二部講演会に行いまして、第3部懇親会を楽しみたいと思えます。最後まで、楽しく過ごしたと思います。本日はご出席有り難うございました。

たいと思っております。参加人数が少ない学年は、『東京鰯陵』の記事の中の運営費支援者名簿がありました。こういう中でも少ない状況です。これは本部でも同じ状況です。言うまでもなく8年後には創立100周年という大きな節目を迎えます。これに向けてですね、ここにも同期生が居りますけれど、40回生以降の参加者を増やしてゆきたいと考えます。何が足りないのかを考えて見ました。実は、20回生代、30回生代の先輩方が色々な鰯陵のことを教えてくれました。鰯陵の校歌の作詞者は何回生の何と言う方とか、全て先輩方に教えて貰いました。一番のことはですね、何故我々は石巻高等学校同窓会ではなくて鰯陵同窓会と言うのかということも、24回生の岩本先輩に教えて貰

いました。こんな事を教えて貰うと、うちの先輩達はすごいと思えます。私が先輩から聞いたことういつた事をこれからは後輩に教えて上げたいと思えます。50回生以降は、ほとんど総会に出ていないのは非常に残念な状態です。これはやはり何とかして改善して参加者を増やしてゆきたいと思えます。

部の方はバラバラになったこともありまして、矢本支部と合併致しまして東松島支部として活動していくことになりました。これが支部の状況です。先程から地震のことを申しましたが、実は支部の代表者の年齢を見まして私が最年少でした。一力所だけ私より若い代表が居りましたが、それは市役所支部で、皆さん定年で退職しますので若い人が務めている訳です。こういう状況ですから、これからは意見を頂きながら後輩を叱咤激励しながら、やっていきたいと思えます。こんな話で申し訳ないですが、最後に東京鰯陵会と母校の益々の繁栄と本日ご参加の皆様のご健勝を祈念致しまして私の挨拶に代えさせていただきます。本日は有難うございました。

私の年代、43回生以降の参加者を増やしたい

鰯陵同窓会会長 青木利光(43回生)



に、あなたは初めてだから行って顔見せに来てと言われましてお邪魔を致しました。当時は全日空ホテルが会場でした。ホテルの高い所から見た六本木界隈の夜景が非常にきれいだったことを覚えています。ただ飲み過ぎたせいか、総会で何をしゃべったかぜんぜん覚えていません。申し訳ございません。2度目は2011年の震災の年の総会に、佐藤佑会長が行けなから代わりに行ってきた。今日と変わってお邪魔致しました。今日と同じ様に総会が粛々と進みまして、懇親会に入りまして本場に久し振りに会う先輩や同級生に暖かい声を掛けていただきまして、元氣になって帰ることが出来ました。本場に有難うございました。そういう訳で今日は3回目なのですが、2回目と同じこの会場で本場に多くの会員の参加のもとに総会を開

催されますことおめでとうございます。実はですね、今日は石巻のことなど何か話をしようと思っていたのですが、先程木村会長さんが非常に詳しく石巻の現状を話して下さいました。私の方から付け加えることはほとんど無いことと、学校の方は後ほど校長先生からお話しいただけると思っています。私の方は、最近同窓会関連で感じていることを話させていただきます。

議長の方の千葉先輩の話の中で40回生以降の参加者が少ないという話がありました。私も副会長の時から幾つかの支部総会に出席致しまして現状を見て参りましたが、何処も同じ状況ですね。若い人の参加者が少ない、特に私の年代43回生以降ですね。これはですね、これから何とか努力して参加人数を多くして行き

生徒には、社会貢献活動を推し進めています

宮城県石巻高等学校校長 小玉卓夫



皆様こんにちは。只今ご紹介にあずかりました校長の小玉でございます。昨年に引き続きましてこの総会に参加させていただきます。お招き有難うございました。私の方からは簡単でございますが、学校の近況についてご説明申し上げます。学校の方からは毎年

のことで、進路状況の冊子と学校の現在の状況を示す抜粋を張り付けた今では珍しいB4版のわら半紙の資料をお配りしましたので、これに基づいてご説明したいと思えます。基本的にはB4版2枚のわら半紙の綴りものを前の方から簡単に申し上げたいと思えます。このわら半紙には無いのですが、今年男子生徒が多く入学しました。どういいう訳か30人位男子生徒が多

ていましたが、何とか元の形
になったという思いでおりま
す。それではお手許の資料に
基づきまして説明申し上げます。

No.1の少し大きい字で書
いてある進学状況ですが、
ちよつと厳しいかなと思つた
のですが、何とか現役で国公
立に70名確保出来た状況で
す。10何年振りになるの
でしょうか、一人京都大学に現
役で合格できたということ
で、女子ですけれども資料の
方に詳しく書いてございま
す。それからページをめくつ
てNo.2ですが、部活動の登録
状況、それからどの中学校か
らどの位の生徒が来ているか
の状況です。おそらくかつて
は、石巻中、住吉中、門脇中
がほとんどを占めていたかも
知れませんが、今一番多いの
は矢本一中、二番目に石巻
中、三番目に今、人が増えて
いる蛇田中でありませう。蛇田
中は人数が増えて生徒を収容
し切れなくなつており、2校
に分かれるのではないかと
いう状況です。それではNo.3を
見ていただきたいのですが、
生徒の方は相変わらず学習に
部活動に励んでおります。細
かい東北大会や全国大会の成
績はNo.4にあります、No.3
のところ注目して貰いたい
のは硬式野球部が、今は軟式
野球部は無いのですが、非常
に頑張つておりまして、私か
ら見れば下手くそなのですが
が、何とか総合力で春の大会
でベスト4、夏の大会甲子園
予選でもベスト4ということ

で、甲子園で準優勝した仙台
育英の佐藤投手がワンアウト
も取れずに降板しました。と
ころがその後の育英の強力打
線に掴まりまして、体重が55

kg位の亀山投手が連投に繼ぐ
連投で疲れてしまひまして打
たれたのですが、コールドに
ならなくて最後まで頑張つて
9回まで持ちました。ちなみ
に新チームですが、これも下
手の極みなのですが、県大会
でベスト8になりました。石
高の野球は不思議なのです
ね、一人一人を見ればさまな
い人なのですが、集まると力
を出して来るのです。いま
ピッチャーが4人居ます。た
だ2人が怪我とかで投げられ
なくて2人で廻しているの
ですが、4人揃つたらかなりい
けるのではないかと期待して
います。他の部活については
後程No.4を見て下さい。例年
通りですが、インターハイ常
連のボート部、ウエイトリフ
ティング部、陸上部、この辺
が確実にインターハイ出場と
いうところですね。それから
学芸部では今、書道部が全国
大会に行けるレベルでござい
ます。余りにも部員が多すぎ
て書道室の練習場に入り切れ
なくて、50人以上の部員が居
る様です。

強く推し進めていることで
が、勉強と部活、これだけで
はこれからの社会を生きてい
けないよという話で、出来る
だけ社会貢献活動をしなさい
ということに参つています

が、そうしたら前の生徒会長
で女川出身の生徒ですが、頑
張つてくれまして色んなこと
に取り組んでいます。No.3の
下段の真ん中に書いてありま
すが、「石高生先生」という
事で石巻の女川中や小学校に
夏休み中、学習ボランティア
で出掛けていまして50人位の
規模になっていきます。それか
ら何と1、2年生全員が、石
巻駅前、日和山公園、学校周
辺のゴミ拾いを行っている事
とか大分頑張つています。そ
の他、No.3の上段の真中にあ
りますが、英語科の生徒達が
仕組んだのですが、こういう
冊子『石巻 A to Z』を作
りました。これを見ると、日
和山から日和大橋を望んだ表
紙なのですが、石巻のことを
紹介する A、Z の26項目を
取材してそれを英語にして出
版したものです。実はある石
巻に居られたお医者さんの奥
様が、石巻のために使われる
のであればと浄財を100万
円程寄付してくれまして、そ
れを基にこの冊子を作ってい
ました。今年は第2号を作ってい
ます。毎年100万円は頂け
ないので、宮城県教育委員会
に働きかけて、石高は英語の
先進教育の研究指定校になつ
ているので、そこから資金
を得まして第2号を作ってい
ます。

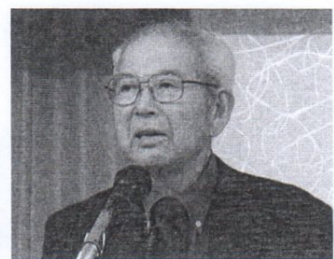
若干残数がありますので、
1部を回覧しますので、ご希
望される方は学校に連絡下さ
ればお送りします。こんな風
に勉強、部活動のみならず、
地域活動、社会貢献活動を通
じて活動し、英語の様々な取
り組み等を行っているところ
です。

最後になりますが、今年7
月にある方の葬儀委員長を務
めました。その方は26回生の
木村邦夫さん、女川で肉屋を
経営していた方ですが、その
方が亡くなりました。私は
初任地が女川高校でしたの
で、そこで大変お世話になつ
た方なのですが、本当にこう
いう方が鰐陵生なのだと思
いました。90周年の記念誌を
入院先で持つて行きました
ら、隅から隅まで読んで、毎
年同窓会報『鰐陵』を見るの
が楽しみなのですということ
で、ご覧になられて、それを
メモリーに記録されておしま
して、石高の校長の私に葬儀
委員長をやつて欲しいのだと
いう事でした、やらせて貰い
ました。お見舞いに行きます
と病床で歌うんです、校歌と
か応援歌とか、そうやって自
分を励ましていたのだらうな
と思ひました。こよなく石高
を愛した方なのだと思ひな
がら葬儀委員長を務めさせて
貰いましたけれども、母校へ
の想いの強い方の集まりであ
るという事で、関西、東海、
東京と総会にお邪魔しており
まして心打たれるものがあり
ます。今日の総会は誠におめ
でとうございます。



恒例企画

米寿・喜寿を迎えた参加者に健康を祝福し、記念品を贈呈



懇親会乾杯と米寿の挨拶

村井昭郎(19回生)

東京鰐陵会総会



会長より記念品を贈られる喜寿の皆さま

私達の喜寿

千葉弘二(29回生)

〈6月21日〉、今年、喜寿を迎えた昭和13年生まれの、東京鰐陵29回生と女川中学卒の28友和会の会員との24名が、女川、石巻、仙台と東北道経由、黄金バスにて6時間、同期生13名の待つ東京のホテルに到着、1泊だけの短い滞在時間でしたが、皆で過ごした時間は、それぞれの思い出と紹介されております。顧問

ご指名でございますので、乾杯の音頭を取らせていただきます。私は鰐陵入学は戦中の19回生なのですが、海軍の予科練に行き落第して戦後の20回後期生の卒業ですので、一言お断りさせていただきます。

女川からの汽車通学でしたが、早起きと若さでお腹を空かし、弁当のほかにおにぎりを持っていきました。それを始業前にあの講堂に寄りかかって太平洋を眺めながら食べるのが楽しみで大好きでした。戦中でありながら本当に平和な気持ち一杯でした。

あのように鰐陵の学び舎がいつまでも平和でありますようにお願い、またここにおられますご来賓の方々、鰐陵の皆様方の一層のご健勝を祈念して乾杯したいと思います。乾杯!

(続いて米寿の記念品を受け取られての挨拶)

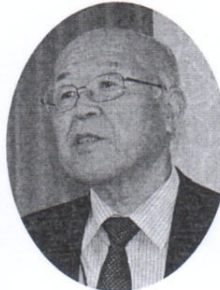
どうもありがとうございます。只今、会長さんから米寿のお祝いのお言葉と記念品をいただきました。今年で満87歳になりますが、私自身はただただ馬齢を重ねただけで、鰐陵会をはじめ多くの方々のご支援をいただき、今日まで生きてこれたと思っております。ありがとうございます。

重ねてお礼申し上げます。

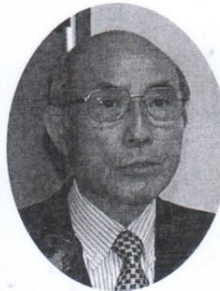
総会司会の堀内副会長(33回生)



千葉副会長(34回生の開会の辞)



早川事務局次長(38回生より会計報告)



村井昭郎氏(19回生)の乾杯の音頭で懇親会のスタート



懇親会の司会・進行は
丁子幹雄氏(38回生)



『おしゃべり、歓談タイム』が増えて、同期生が同じテーブルで大いに盛り上がる。中学やクラブ活動での先輩後輩の楽しい話らい。

集まろう！

来賓役員

東京鰐陵会総会



当番幹事回生・38回生の檄文 荒川憲一(38回生)

の三宅哲氏(27回生)、東京鰐陵会事務局の早川誠氏(38回生)も参加して、楽しいひとときを過ごしました。それぞれ年相応の面々。帰りは日暮里駅までの散策を楽しみ、また来年を約して解散。

でした。先生がお帰りの後、2次会は門前仲町の「女川明神丸」へ、ホテルで泊りして散会いたしました。



高い所から失礼します。38回生の荒川憲一です。本日は、足元のよろしくない所を東京鰐陵会第24回総会にご参集いただきまして誠にありがとうございます。

もう一つ我々が37回生の先輩から教わった幹事回生心得は、この東京鰐陵会の総会に出席して楽しい総会にしようという事です。出席して良かった、楽しかったという感想を持って頂ける東京鰐陵会総会にしようという心得を、次期幹事回生に申し送りしたいと思います。

第24回総会の当番幹事回生・報告

同期生の有難さと ネットワークの大切さを実感

熊谷勝義(38回生)

平成27年11月8日(日)東京鰐陵会第24回総会が東海大 学校友会館「望星の間」(霞が関ビル35階)で、会員・来賓合わせて132名が集まり開催されました。第一部総会は定刻正午より堀内文夫事務局長(33回生)の司会で千葉保宗副会長(34回生)の開会の辞により開始されました。和泉耕二氏(38回生)の指揮により校歌斉唱のあと、物故者に対して黙とうを捧げました。続いて木村貴則会長(33回生)の挨拶があり、近時の故郷石巻の現況と本総会を迎えるに当たっての抱負が述べられました。次に議事にはいり千葉保宗副会長を議長に選任し木村会長より「役員の変更と異動」、堀内事務局長より「行事・会務報告」、早川誠事務局次長(38回生)より「会計報告」、千葉弘二監事(29回生)より「監査報告」と議題に則して報告が行われそれぞれ承認されました。

次に第2部講演会に移り、日本考古学協会会員の三宅宗

議氏(26回生)の「石巻―海とかかわる歴史」という演題で講演をいただきました。予定された講演時間をオーバーする情熱あふれた講演に引き付けられました。「詩と考古学のワラジを履いて」という「鰐陵」57号の特別寄稿文の別刷りを参加者に贈呈していただきました。

第3部懇親会は丁子幹雄君

(38回生)の司会進行で始まりました。堀内事務局長よりご来賓の方々の紹介のあと、鰐陵同窓会会長青木利光氏(43回生)より新会長就任の抱負をお聞きしました。小玉卓夫石巻高等学校校長先生からは、最近の在校生の活躍ぶりをこ意図いただいたレジュメを基に学習や部活動の成果を披露していただきました。次に本日の最長老出席会員の村井昭郎氏(19回生)による乾杯の音頭で懇談の幕が開きました。乾杯の後直ぐに、米寿、喜寿を迎えられた出席会員に会長から記念品を贈呈しました。今回は10名の方が該当しました。初めて参加した人達も会場の雰囲気慣れ、また久しぶりに参加した方もお互いの健康を願えながら旧交を温め、そして部活動を通じての先輩後輩の消息確認をしたり出身中学の同窓生に挨拶を交わすなどあつとつ間に夏もクライマックスに至りました。

今回38回生が当番幹事回生

というところで大掛かりに動員を掛けたところ、仙台石巻より7人の応援団を含めて総会参加者の2割に近い24名の方々にご出席いただきました。紙面をお借りして感謝申しあげます。その同期生代表として荒川憲一君に散文を披露して貰いましたが、元石高応援団、元一等陸佐、前防衛

大学校教授というユニークな



総勢24名(石巻・仙台から6名)の当番幹事38回生の皆さん

氏(29回生)の中締めで余韻を残しながら懇親会は予定時刻に終了やむなくとなりました。懇談の間隙をぬって木村会長自ら各テーブルを回ってテーブル毎の記念撮影をして貰いましたのには感謝です。以上簡単に第24回総会の模様をご報告しました。

次にこれまでの関東地区における38回生の活動ぶりについて纏めてみます。

地元石巻には「鰐陵三八会」という同期会が昔から存在し「還暦を祝う会」や「震災被害者を励ます会」等いろいろなイベントを企画し実行しています。「仙台鰐陵会」も同様で名簿をしっかりと管理しネットワークの充実にも努めています。一方関東地区の同期会はなかなか一堂に会する機会がなく、個別に同級会を開催する程度でした。小生も昨年初めて総会に参加し、次年度は38回生が当番幹事だから少なくとも37回生の実績15名を上回る動員を先輩にはつばをかけたりました。従来から理事を務めていた和泉耕二君、早川誠君のアドバイザーを受けながら総会の2カ月前から具体的に動き始めました。この3年間の参加者実績は累計12名という寂しい状況の中、相当焦ってやらないという目標達成はおぼつかないというのが実感です。まず早川君の持っている名簿から目指している片っ端から電話を入れて貰いました。その中から幹事有志の発起人のような役割で10名をリストアップし、総会2カ月前にミニ幹事会を立ち上げ37回生の散文をまねて総会事務局からの案内状と一緒に同期生宛「二次会を関東地区の同期会発会式を開催」する旨

経歴の持ち主の散文に誘発されたのか、25回生の先輩諸氏からは「我々は君等より13歳年上だが今日は11人の強者が参加している。君等は13年後11人以上参加できるか!」と一喝が入りました。その意気軒昂ぶりには頭が下がります。次に当時生徒会長を務め

の参加を強力に促すと同時に、当日会場の受付・誘導係りをお手伝いできる人数募集という触れ込みで依頼文を発送しました。

その間地元石巻仙台方面から38回生当番幹事の話題が伝わり佐藤孝一君の声掛けで7名の応援団を組んで頂き、当日の総会と二次会を盛り上げていただきました。この歳に

東京鰐陵会総会に参加して

仙台鰐陵38会 中村伸(38回生)

2015年11月8日、東京鰐陵会に石巻・仙台鰐陵会38回生が出席しました。

出席者は、石原一雄、岩淵格、勝井芳之、佐藤孝一、白鳥誠、千葉信一、中村伸の7名です。今回、出席するまで



仙台鰐陵会・中村伸氏(38回生)の挨拶

の経緯及び仙台鰐陵38回生の活動を報告いたします。2015年8月に行われる石巻本部鰐陵同窓会の案内が届き、石原君より我々も石高卒業後50年の節目を迎えるので、是非仙台からも出席しようとの呼びかけがありました。その席上、今村正直君(住吉中卒業)から、今年の東京鰐陵会38回生が当番幹事との情報をいただきました。

その後、仙台メンバーの佐藤孝一君が中心となり、11月の東京鰐陵会に参加しようとの機運が高まり、メンバーに声掛けを行い、上記の7名が参加することになりました。本来は、もっと多数のメンバーで参加したかったのですが、まだまだ現役で活躍中の方が多く7名のみとなりました。

さて、東京鰐陵会の当日は、石巻からの参加者の時間の関係もあり、総会スタートには間に合わず、途中からの参加となりましたが、38回生のテーブルに座ると、なんと卒業以来50年ぶりに再会する

繋げよう！東京鰐陵会



19～26回生



25回生



27～28回生



29～31回生



32～33回生



34～36回生



37回生



38回生



40～43回生



44～50回生



56回生～、当日出席者



境田氏(37回生)旗振りて応援歌の大合唱



総会・懇親会 中締め挨拶 監事 木村莞爾(29回生)

29回生です。いつも言っておりますが、監事を務めております木村莞爾です。先程は38回生の盛り上がり、25回生の押し上げがありまして、宴たけなわではございますが、大変申し訳ないのですが、これで中締めとさせていただきます。それから25回生の先輩から、俺達にお祝いが無いのかと式の始まる前に話が有りましたが、それは米寿の時まで

待っていたら、全員お揃いでお集まり下されば、豪華な記念品を差し上げられるのではないかと存じます。我々は29回生で先程有難い喜寿の記念品を頂きました。皆さんも頑張っていたらと思います。

締め方は色々あるのですが、簡単な一本締めで参りたいと存じます。よーお、ちよんでいきますから、皆様ご唱和をお願い致します。では、ふるさとの復興と繁栄を願いながら、母校石巻高等学校、東京鰐陵会、本部鰐陵会の繁栄を祈念致しまして、一本締めをお願いします。よーお、有難うございました。



40回生(20・40回生合同)の発表

メンバーが多く、大感激でした。乾杯後、改めて高校時代に戻り、昔話や近況報告と大変な盛り上がりでした。また、37回生をはじめ、先輩の方々とも交流ができ、東京ならではの鯛陵会で、当番幹事の38回生の皆様のご尽力には感謝しております。

また、2次会では総会に出席できなかった同級生2名も参加し、自己紹介を兼ねた近況報告等でもまた盛り上がり、本当に楽しい一日になりました。

東京鯛陵会法曹会について

奥山興悦(31回生)

平成26年11月の東京鯛陵会を契機に、在京の石巻高校卒業の弁護士が集って東京鯛陵法曹会(仮称)を結成した。メンバーは、奥山興悦(31回生)、瀬川徹(40回生)、相澤貞止(同)、鈴木雅芳(48回生)。

佐藤大和(73回生)の5名。私は長く裁判官を務めたのち、弁護士となったが、3・11の石巻の被災状況について平成二四年雑誌『法曹』に「石巻への想い」を発表。平成26年5月の日本弁護士連合会に



東京鯛陵法曹会・忘年会(2014.12)

よる石巻への被災地訪問の際には、阿部和夫元石巻市教育長や大津幸一専修大学教授及び若生石巻市教育委員会主事らのご協力を得て、門脇小学校前で被災状況を全国から集まった80名の弁護士らに説明し感謝された。

翌日は、早川誠君の車で、明治神宮、靖国神社、浅草寺を案内していただき、昼は上野の寿司屋で熊谷勝義君、丁子幹雄君も合流し、また話が弾みました。

我々38回生は、今年、古希を迎えます。仙台鯛陵38会が中心となり、「古希の会」を計画しております。平成28年7月3日(日)18時 秋保温泉に1泊の予定で詳細を語めています。東京鯛陵38回生の皆さん、奮ってご参加ください。

最後に、今回参加した石巻・仙台のメンバーに一言、感想をもらいましたので、ご披露しお礼に代えさせていただきます。

石原一雄「石巻の底力、東京鯛陵会で痛感した」

岩淵格「頻りに会いましょう、楽しかった」

勝井芳之「東京はイイ! 38回生は実にイイ!」

佐藤孝一「鯛陵38回生の団結力、あつぱれ」

白鳥誠「同級生を見て、改めて自分も年老いたと愕然」

千葉信一「高校時代の髪ぶさふさと、あまりにも違うので、誰にも分かってもらえなかった」

中村伸「寿司と酒うまかった」

い、北上川の川開きの再開などに力を注いだ。現在も在京の40回生約20名で年に2、3回飲み会を行っている。

一番若手の佐藤大和弁護士は、昨年受験生向けに『ずるい暗記術』(ダイヤモンド社)を刊行したが、ベストセラーとなり、韓国や台湾でも発売されることになった。テレビにもたびたび出演し、平成28年石巻ランドホテルにおける経営者協会石巻支部の新春講演会で、労働トラブルやその防止策などについて講演するなど多方面で活躍中。

東京鯛陵法曹会は、平成28年2月に第2回の会合を開いた。このように30代から70代までの同郷の弁護士5名が年に一度集まって、石巻や母校の石巻高校の発展のために語り合い、率直に意見を交換することができるとはとても楽しい。この会が東京鯛陵会の充実発展に寄与できれば幸いである。

「石巻支援三七会」活動報告

「子どもに笑顔を!」を合言葉に 集大成はチャリティーイベント 「あの日をつなぐ」

石巻支援三七会代表 佐藤悠(37回生)

石巻圏の支援活動を続けてきた石巻支援三七会では、平成28年3月6日、東日本大震災5周年チャリティーイベント「あの日をつなぐ」を、東京の文京シビックで開催しました。この催しは、「あの日の記憶を未来に語り継ぐ」ことを目指し東京で開催したもので、会場は1,200人の参加者で埋まりました。

催しは、第1部が3Dドキュメンタリー映画「大津波3・11未来への記憶」、第2部がシンガーソングライター鈴木あいさんの「ミニライブ」と池上彰氏の講演という内容。

3時間半という長丁場でしたが、催しは好評で、とりわけ「あの日から5年たったが、震災から5年ではない。震災は今も続いている」と喝破した池上氏の講演は多くの方々から高く評価する声が寄せられました。

また、企画展示・繪佐文野写真展「東北の学校」を6日から9日までの4日間、文京シビックの展覧会場で同時に開催しました。ニューヨーク在住のフリーカメラマンが母の故郷・石巻を中心に、被災地の学校に焦点を当てて撮影した作品展で、この種の展覧会としては異例の1,200人余りがつめかけました。



池上彰氏(写真上)の講演は多くの方々から高く評価された



「子どもに笑顔を!」を合言葉に「あの日をつなぐ」を合言葉にアートの力で子どもたちの心を癒し、明日への生きる力を育む「出前授業」に取り組んできました。また、仮設住宅の皆さんへの支援、被災地の身近なギャラリーホールで豊かな時間を共有できる憩いの場を提供する「駅前北通りコンサート」、そして、講演会や合唱オペラ公演、更には、地震による地盤沈下で大きな被害を受けた北上川河口のヨシ原再生の運動を側面から支援する活動にも力を注ぎました。

私どもがこの5年間に「出前授業で訪ねた幼稚園や小・中学校、高等学校、支援学校などの学校関係、そしてコンサートや公演、イベント、展覧会などを展開した施設や会場は約75カ所、参加者はおよそ1万1千人に上ります。

私どもは5年間を目指して会の活動を続けてきました。が、会を牽引してきた世話人の個別の事情や会をめぐる諸般の状況を勘案し、「あの日をつなぐ」の取り組みを最後に、満5年となる平成28年3月末をもって会の組織的な活動を一区切りつけることにしました。

もちろん被災地の復興は道半ば、むしろこれから正念場ということは十分承知しています。私どもは、これからも故郷・石巻をしっかりと見守り、可能な範囲で支援活動に協力していくことが出来ればと思っています。

この5年間のご支援、ご協力に心から感謝と御礼を申し上げますと共に、今後も様々な形の活動に対するご理解とご協力を、よろしくお願ひ申し上げます。



東京鰐陵会第24回総会第2部・講演

『石巻——海とかかわる歴史』

日本考古学会会員 三宅宗議(26回生)

26回生の三宅宗議です。どういう風の吹き回しか私に話をしろということになりました。

私は余り勉強をしていないもので、良いことは言えないのです。新聞の『東京鰐陵』に私の紹介が書いてありまして、日本考古学会会員とありますが、それは良いとして、考古学者と書いてあります。それはまずいんではないかと思えます。そうすると難しいことを言わないといけないのですが、私は難しいことは言えないのです。考古学マニアという程度で、ご勘弁願います。

今日、石巻の歴史について話をしたら良からうということなのですが、今なぜ石巻かということですか。石巻の発展を願うと同時に歴史を振り返って、石巻についての新しいアイデアが出てくれば幸いだらうなと思う次第です。皆さんは私より長い経歴

の方が多くて、石巻を離れて関東に住んで居て、だんだんと石巻に関する情報が少なくなってきたかと思えます。それで郷愁を覚えて来るものが多くなると、こういう会への出席の形に表われてくるんだらうと思えます。

私も学校の教師を辞めて20年になりますけれども、時に海が恋しくなります。朝潮の寄る磯辺や、北上川の豊かな流れが思い出されませぬ。そんな時に大震災があった津波が来て、石巻がすっかりと飲み込まれてしまった訳ですが、あれはものすごくショックでして、私が石巻でやってきた事がみんな海に飲み込まれて沈んでしまったのではないかと感じたのです。どうしても昔のことを記憶に留めておきたい、それを何かの形で発表したいと考えまして、少しずつ書き物に残し始めたのですが、その時にたまに石巻の話をしていうこ

とになりました。さて、私は石巻を離れてこちらに来て、余り海とは関係ないことをやっています。海の無い陸の埼玉県に居りますから、石巻のことを話せと言われて色々と思ひ出したのですが、結局は石巻は7千年という歴史がありますから、そういう事をお話するのは、7千年の歴史は縄文時代から始まって現代まで続くので、縄文時代から始めなければならぬ、という事で、私は高校生の時に縄文をやりました。その後は古代とか中世とか時代が下がったものをやってきました。ほとんど記憶が無くなってきたのですが、その状態でここにきておられます。何を言いたいかと言いますと、縄文時代というのは、こういう時代であった。そして石巻は特に漁撈の文化、海の文化の歴史である。船の文化もあります。中心になるのは漁撈活動であ

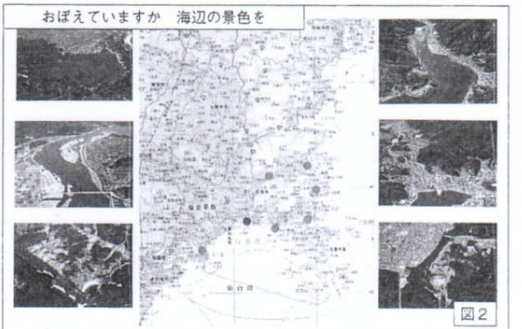
ろ。それが長い長い活動の蓄積によって今日に及んでいるのであろう。ですから石巻を語るには、縄文時代の漁撈文化を話さないと後に続かないだらうという事があります。その項目として12項目を上げました。石巻地方の縄文の歴史については私は素人でありませぬけれど、その研究の代表的な人は誰かと言うと、住吉の毛利総一郎さんと遠藤源七さんです。この方々は沼津貝塚の発掘をしまして、膨大な資料が国の重要な資料になってます。その中の半分は東北大学に保管されていまして、残りは毛利コレクションにあるわけですが、国指定の重要文化財として評判が高い。これは日本に冠しているものです。この間の大震災の時に毛利コレクションの移管の話が出た時に、真っ先にアメリカとかドイツから移管の申し出があったように、

知名度が非常に高いものです。それから河北町の南境貝塚です。この貝塚は石巻に居た楠本政助さんが調査して、その成果は全国的な関心を集めました。今日はその楠本さんの話を含めて石巻の漁撈文化だけでなく、日本に広げてお話ししたいと思えます。ついでに、石巻の縄文文化の研究者はたくさん居るので、身近な人の名前をあげますと岡村道雄さん。文化庁、奈良国立文化財研究所を経て、いま奥松島縄文村歴史資料館の名譽館長を務めています。この人の研究は素晴らしいものです。これに併せて紹介したいのは、藤沼邦彦さんです。彼は鰐陵33回生で、東北大学大学院を出て長く東北歴史資料館に居て、それから弘前大学教授を務めた。こういった研究者が居ります。鰐陵出身者は他に丹羽茂さんと阿部恵さん。丹羽さんの研究は今回使わせて貰っています。石高

には何か考古学に関心を持つ方が多くて、今日の出席者名簿の中にも考古学班に籍を置いた方が吉野弘さん始め3〜4人居ります。また、皆さんご存知の石野博信さん。私が石高1年の時3年生でしたが、この人は縄文で育って奈良県立橿原考古学研究所に長く居て、邪馬台国畿内説を展開してました。最近の鰐陵OBでは文化庁文化財調査官の近江俊秀さん。この人は古代の道路や都城研究の第一人者で、これからの嘱望される人です。彼とは最近埼玉県小川町で会いました。私はこのところ板碑(イタビ)という石の率都婆(ソトバ)のことで、武蔵国の板碑の製作場所は何処かを調べていて、やっと思つかりました。それが国指定遺跡になったのですが、その指定に向けて指導助言して貰った係官が近江さんでした。28年振りに会いまして、こういう風に石高出身の

考古学者は多数居ります。(図1) この風景はご存知でしょうか。説明するまでもありませんが、ここが日和山で母校はこの辺に在ります。荒潮たぎつ金華山ではないですが、荒潮たぎつ石巻湾があります。ここに中瀬があり、北上川の洋々と」がここを流れています。桃生がこの辺です。この川沿いと海沿いが石巻と言って良いだらうと思えます。ここにどうい文化が生まれて発展していったかが今日の話題です。

(図2) この地図で示しますが、石巻地方というと広く石巻桃生牡鹿地方を指します。これ大体が石巻高校の生徒の通学圏になります。今は少し変わっているでしょうが、当時は浦谷の方からも来ていました。籠岳山(のたけさん)



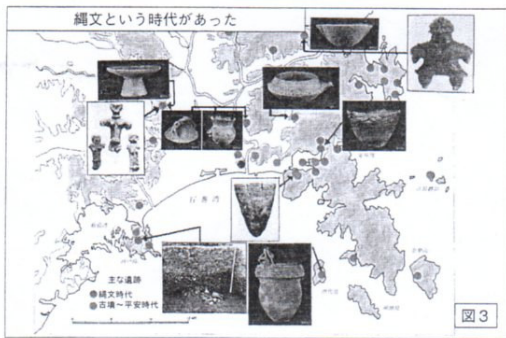


図3

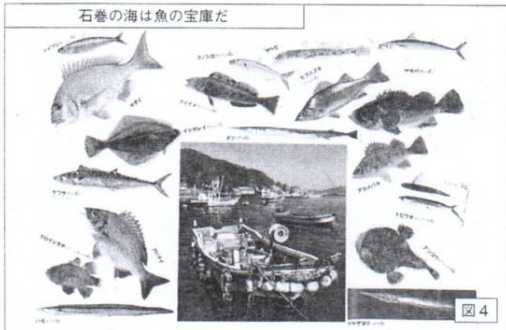


図4

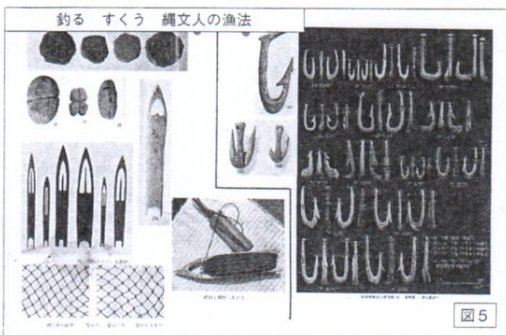


図5

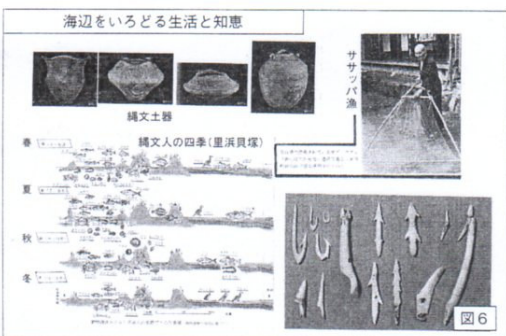


図6

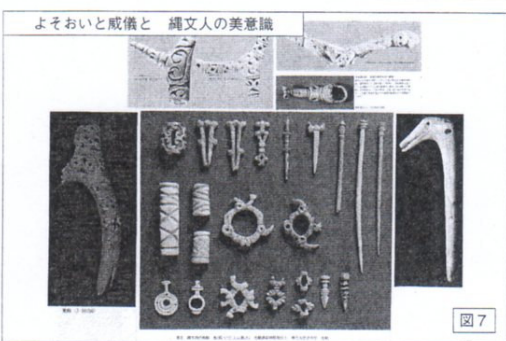


図7



図8

がこの辺ですが、この範囲が通学区になります。石巻地方の歴史を論じるには、石巻高校の通学区を頭に入れておかねばなりません。ここで皆さんに質問します。ここに6つの空撮写真がありますが、これはどの写真でしょうか？

答えは、(右上から)雄勝湾、女川湾、渡波、河北町と長面湾、追波湾、松島湾、ですね。この青い印は何でしょうか。我が母校です。この6つの写真で共通しているところは、海が入り込んでいます。丘陵から海に繋がる狭い平野があります。縄文時代は丘陵から直ぐに海に繋がっていました。この狭い平坦地が皆海でした。この間の大震災で大津波の時は海抜0〜10m地帯が海になってしまいました。これが、あれを見てふと思いました。縄文時代の地形に戻ったという事です。何か嫌な感じでした。この海が7千年前〜2千年前には内陸のどこま

で広がっていたかというところ、大体浦谷辺り、笹岳神社のふもと辺りまで広がっていました。この水色を塗った辺りが当時の陸地です。この辺が浦谷ですね。我々の先祖は、こうした山から下りて来て海辺に住むという状況でした。海辺に住んで居たわけですね。

(図3) これは縄文土器です。これが里浜貝塚の断面を示したものです。これは土偶と言っているのですが、恐ろしい顔をしています。我々のご先祖様の顔です。この赤印が貝塚です。有名な沼津貝塚がここです。ここが南境貝塚です。ここが万石浦でこの辺にも沢山の貝塚があつて密集地です。ここが雄勝の浜です。昔、桃生半島と言っていました。ここが田代島、金華山にも貝塚がありましたね。ホテルのあった所です。この緑色

は縄文時代の後になってから貝塚が作られていたことを示しています。海のものを探して食べて、食べかすを捨てた所です。この緑色は縄文時代からもっと下がって、古墳時代などになるのですが、この場所はどこでしょう。ここ女川町の島の島ですね。江の島の隣りに平島があつて、そこで20年位前に縄文土器などが発見されています。離れ島なのですが、人が住んで居た痕跡があります。当時は漁撈の前の進基地として使われていたようです。こういう島にも人が住んで居た痕跡がありました。漁撈の拠点となっていたようです。これは田代島ですが、ここも同じです。藤沼さんは、こういう島の拠点同士が連絡を取り合つて島の文化が開かれたのではないかと断言しています。

(図4) さて石巻の海は魚がいっぱい取れました。これは当時取れた魚です。これは鯛(タイ)です。黒潮に乗って上がってきたのですが、当時は海が暖かかった。陸地の気候も暖かくて、暖かい海水が陸地まで入つて行つた。そこで石巻の海にはこういう魚がいた筈だと言われています。「たがろう」という魚を知っていますか？「あんこう」も取れた。縄文時代にはもっと魚種が多かったとも言われています。この船は「サツパ船」です。石巻湾には何種類の魚がいたかについては、楠本さんが石巻湾に網を掛けて1年半にわたつて取れた魚の一覧表を作りました。それによると42種取れています。それ位の魚があるということです。水深20m位の砂浜に設置した定置網ですから、その辺の魚しか取れない、回遊魚は取れない、陸魚なんかは除かれています。

(図5) これが当時の漁具です。鹿の骨と鳥の骨を使った物で、これだけ色々な種類と大きさの物があります。これ等を調査したのが楠本さんです。これが、モリ、ヤス、釣り針、等です。これが「ヤス」です。このヤスに弱点があります。刺して抜けにくくするのには、段々と改善していきます。これで突いて取る魚は何でしょうか。始めは突いて取つていた。これは何に使われたのでしょうか(使い方の説明が続く)。弓矢で魚を取つた時の漁具です。これは矢ハズ(漁具の説明

と使い方が絵に基づいて続く。釣り針についての説明が続く)。この釣り針の使い方、説明できる方は居りますか？これは重りです。重りも色々あります。我々が使う重りの原点がここにありま

(図6) これは海辺でどういう生活をしていたかという事です。縄文土器を使って春夏秋冬の生活の様子を岡本道雄さんが書かれたものです。

(図7) 縄文人の美意識としての、装いと威儀に使われた色々な装身具がありました(装身具の説明が続く)。これからは、貧富に差が無い社会であつたように思われますが、実際には漁撈を統一する人がいて、それが神がかりであつたと思われ

(図8) 色々話が長くなってしまいました。これは女川の魚市場での魚売りのおばあさんですが、この縄文土器の顔と似ているように見えます。縄文時代の漁撈人が今に繋がって生きていることを感じさせました。ご静聴、ありがとうございました。

短信

総会出席者からの近況報告

■14回生(22回生)

佐藤孝己(14回生) 足腰が弱まり遠出はできませんが老人会(茶の会)に入っております。

長崎孝治(15回生)

老齢が急速に進み、最近遠出を医師から禁じられている状況です。

安住重一(20回生)

約2年前頃から脚と肩が老化し、外で人と会う約束が出来なくなりました。今は我が生涯のラストラン整理中なっております。

木村隆吉(22回生)

体力の衰えと共に老婆の介護のため遠出の外出不可能となりまして、東京へ出るのも不可能となり残念至極、皆様へよろしくお伝え願います。

鈴木善治(22回生)

欠席が多くなり、残念です。体調をととのえて出席できるように頑張ります。

吉田正文(22回生)

石中を離れて67年。元気でおりますが、総会に同級生の参加がなく残念ながら欠席します。次回は、と思っております。

■23回生(24回生)

荒川竹雄(23回生)

年々歳々、老いの度合いを深めています。特に、肩のあけるほどの症状はなく、今のところ差無く過しております。

■23回生(23回生)

佐々木吉(23回生)

体ばかりか、脳の劣化も著しく、今後共、総会出席は無理です。よろしく願います。

高橋寿雄(23回生)

お手数をお掛け致し申し訳ありません。病氣療養中につき欠席させていただきます。相変らずの病院通いです。

のご発展をお祈り致しております。皆様によろしく。

田代善郎(23回生)

我々23回生は現在、首都圏に30名居住し(ひとと50名)、毎年11月、六本木に半数以上の出席を得て、盃をかわけ、各自の健康等、近況を述べ、合い、行く秋の午後、先々は東京オリンピックを元気で迎えたいものと思いを注いでおります。

千葉博義(23回生)

80歳を超えて、体力も衰えましたが、現状維持を心掛けて、何とか元気で生活しております。

若原潤(24回生)

体が思うように動かない処が多くなっております。

阿部長雄(24回生)

腰痛で歩行困難ですが、元気でいます。いつも、ご案内いただき誠に有難く、厚く御礼申し上げます。

山口正雄(25回生)

この数年、体調に優れず入退院の繰り返し、遠出の出来ない状態であり、今回を以て退会させていただきます。

阿部剛夫(26回生)

体調不良につき欠席します。現役時代は、虎ノ門迄、通勤していたのに、電が間かとも遠くなり大旅行する様な感じでした。

柴田晴夫(24回生)

近頃体調が優れず欠席します。高山研造(24回生) 体調不良につき欠席します。

玉河信也(24回生)

年齢的にも体力が低下してきています。相応に元気に過ごしています。

手塚康二(24回生)

当日は先約があり、残念ながら欠席致します。云の盛会を祈念しております。

■25回生(27回生)

佐々木 俊(26回生)

遅年の老人ホームでのんびり暮しております。

鈴木哲郎(26回生)

難病にも手術成功、リハビリをつけ、現在なんとか恙ない日々を過ごして居ります。

津田健二(26回生)

会社は現役で会長をつとめています。81歳になっても、ロータリークラブ、倫理法人会と毎日忙しく暮らしています。

水野浩記(26回生)

このところ、体調がすぐれませんので欠席させていただきます。

山口和儀(26回生)

この数年、体調に優れず入退院の繰り返し、遠出の出来ない状態であり、今回を以て退会させていただきます。

阿部剛夫(26回生)

体調不良につき欠席します。現役時代は、虎ノ門迄、通勤していたのに、電が間かとも遠くなり大旅行する様な感じでした。

佐々木利勝(28回生)

特にお知らせ。体調は良好です。千葉善八郎(28回生) 健康であることが一番です。

大山重彦(27回生)

日本スキー指導者協会、神奈川県スキー指導員会の役員をしております。

鈴木 勲(29回生)

毎年、恒例の習い事の発表会があり、残念ながら欠席です。

菅原英徳(27回生)

体調をくずし、集会には参加できません。東京騎陵会会員のご健勝と総会の盛会をお祈り致します。

徳江 明(27回生)

高齢者(一人暮らし)の見守りの他、昼食会、映画会などを通してボランティア活動に生きがいを感じております。

平岡正男(27回生)

2年前に妻が倒れ、左大腿骨複雑骨折をし、すぐ手術したのですが、その後経過が思わしくなく現在に到っております。

米本邦雄(27回生)

腰痛の為、あまり動けません。■28回生(29回生) 大井俊弘(28回生) 体調不良で残念ながら欠席致します。

勝山 峻(28回生)

食道方手術後、体力激減。桜井忠義(28回生) 花の季節には、花をたずね、四季の移り変わりを撮り、時には近くのデパートへ伺い、色々な方々との交流を深めております。

佐々木利勝(28回生)

特にお知らせ。体調は良好です。千葉善八郎(28回生) 健康であることが一番です。

佐々木健(29回生)

返事が遅れ申し訳ありません。近況として特記はありませんが、最近は一「善」をモットーとして体を動かしております。

鈴木 勲(29回生)

毎年、恒例の習い事の発表会があり、残念ながら欠席です。

末永俊明(29回生)

1日30分の散歩、テレビを観るくらい、東京騎陵の会員。ご送付ありがとうございます。

■30回生(31回生)

窪田敏郎(30回生)

細々と会社で働いています。健康には、十分注意するように行動しております。

佐々木勇(30回生)

病氣療養中につき欠席致します。寺澤正典(30回生) 法事の出席の為、欠席します。

橋本照高(30回生)

盛会を祈念申し上げます。半澤哲志(30回生) カリタシヤパンを通じ東日本支援活動が続いています。

■30回生(31回生)

今年も2ヶ所残った町の保育園に80冊の児童図書を送ることが出来ました。

桑島 馨(31回生)

未だ現役活動中です。所用のため欠席させていただきます。

三浦半島(31回生)

今に乗ります。小学生の野球コートもやっています。

■32回生(33回生)

阿部隆雄(32回生) 毎日が休日の老後生活を楽しんでいますが、町内会の仕事や元の職場のOB会の役員などで結構忙しく暮らしております。

中里成男(32回生)

小野善義明(32回生) 誠に申し訳ありませんが欠席させていただきます。

赤間 弘一(31回生)

年に2-3回桃生町に帰る程度、市内周辺地域が着実に復興して、姿を拝見し、心強く感じしております。

阿部 弘一(31回生)

騎陵会案内にもありますが、同様に住んでいる小杉充吾(住中)と年3-4回程、会食等交友を温めています。

阿部 行(31回生)

先日テレビ報道によると仙石線、石巻線が完全復旧されました。

小麗麗之(31回生)

病氣を患ってから、家でゆっくりしております。

木村照夫(31回生)

この騎陵総会がきっかけで同期の佐々木一君と57年ぶりに再会できました。

■34回生(35回生)

阿部 馨(34回生) 1年近々の再入院により、右足を切断し現在、車イスの生活の為、出席できません。

阿部 春(34回生)

今のごところ元気を注いでおります。

三浦孝喜(34回生)

総会のご案内がとまっています。勝手なお案内で申し訳ありませんが欠席させていただきます。

今野勝三(34回生)

通所リハビリ室のペランダから冠雪した富士山が終日眺められる爽やかな日和を迎えております。

高橋浩夫(35回生)

ご連絡ありがとうございます。ご苦勞様です。

■34回生(35回生)

阿部 馨(34回生)

1年近々の再入院により、右足を切断し現在、車イスの生活の為、出席できません。

阿部 春(34回生)

今のごところ元気を注いでおります。

三浦孝喜(34回生)

総会のご案内がとまっています。勝手なお案内で申し訳ありませんが欠席させていただきます。

今野勝三(34回生)

通所リハビリ室のペランダから冠雪した富士山が終日眺められる爽やかな日和を迎えております。

高橋浩夫(35回生)

ご連絡ありがとうございます。ご苦勞様です。

年退職になり、名誉教授になりました。宇都宮大学、創価大学には各員教授として教えています。当日は台湾出張のため欠席します。盛会を祈っています。

谷 光彦 (35 回生)
ボランティアの仕事が忙しく、今回は、(当日) 町会代表としての美化環境デー。環境保全会代表として企画運営していることから欠席させていただきます。尚、事務局関係者には平素から大変な御苦労をおかけしており申し訳ありません。

松本金治郎 (35 回生)
当日、住中の同期会が島島で行なわれるため、そちらに出席するため、今回は欠席します。

片岡敏光 (36 回生)
鳴子で開催された同期会、大変楽しい思い出となりました。先約と重なり残念ながら出席できませんが、盛会を祈念致します。

佐藤三寿夫 (36 回生)
小生の名前は三寿男ではなく、三寿夫です。御注意を！ 石巻をむかえ、体コキコキです。石巻大好きです。

塚本園樹 (36 回生)
体調不良で、対外活動や出席不可です。

阿部 貢 (37 回生)
ランニング、グラウンドゴルフ等に汗を流し元気にしております。今回は都合がつかず欠席します。みなさんお元気ですか？

遠藤順政 (37 回生)
何とか週4日勤務の会社生活を続けています。妹を津波で亡くし、石巻の復興が気がかりで、年数回は石巻に戻っています。

阿部博行 (37 回生)
今回事業用として参加できません。今年はおもてなしと中国児童の方に行きました。11月はインドに行っています。来年は是非参加したいと思っています。

木村和史 (37 回生)
昨年、脳梗塞となり今現在歩けるようになりませんが、また左手が不自由です。現在リハビリ中です。

白鳥隆幸 (37 回生)
先月(9月) 大学時代の部活(台気道部)仲間7人(全員集合)と石巻の祝い(数十年前で70歳)を行いました。50年前の出来事は昨日のように覚えていますが、1週間前や1ヵ月前の事は、

よく覚えていないとなり、皆んで大笑いしてしまいました。盛会を祈念いたします。

高橋光正 (37 回生)
皆様お元気ですか。私は今回都合がつかず欠席します。仕事は昔ほどやれませんが楽しんでます。楽しい会となりますよう、お祈り申し上げます。

星 憲夫 (37 回生)
義母、義弟の容体が芳しくなく、見通しがつかないで残念ですが今回は欠席します。次回をよろしく。

山下政志 (37 回生)
当日は残念ながら所用が在り、参加出来ません。元気に暮らしていますので皆様には宜しくお伝え下さい。来年は参加したいと思っております。

浅野正博 (38 回生)
38回生の当番幹事御苦労様です。欠席で当番幹事の務め果たせず申し訳有りません。38回生皆様の御健康、2次会の盛会を祈念致します。

阿部盛行 (38 回生)
姪の披露宴と重なり誠に残念です。私の孫がボート部で、10月に東北大会新入戦に出場します。私は万幸補欠でしたが、孫の頑張りを期待しています。来年に向け、石高ボート部の応援をお願いします。

齋藤 優 (38 回生)
体調不良ではありますが、毎日元気にしています。みなさまよろしくお伝えください。

鈴木 晟 (38 回生)
ごく些少ですが(通信費代として)、振り込みしておきます。

鈴木睦夫 (38 回生)
建設機械部品の梱包業に携わり、6年余りになります。雇用契約が来年の3月まで、その後は未定です。

船山浩志 (38 回生)
○6月末で退職し無職になりました。○女房が乳ガンで手術後、病気で死んでもおかしくない年令になったと実感。○好きな旅行にダイビングにどんどん参加し、金が乏しくなったら止める、ことにした次第！

石川伸吉 (38 回生)
横田幸治 (38 回生)
横田幸治 (38 回生)
会社を辞めてから、18年間古本屋の店番をしてきましたが、現在はヤマト運輸のDM配達をやっております。横浜の坂道を自転車ですり下りするので

体は丈夫なはずですが、血糖値の高さに悩まされております。

岩崎宏幸 (39 回生)
ご連絡ありがとうございます。石小時代のクラス会に出席の予定です。すみません。当時担任は大場まさ子先生です。門小、石小等々教師をされてましたので教え子の皆さんが多数いらっしゃると思えます。ちなみに先生は母の姉で、叔母さんの授業を受けていたという思い出が有ります。寒さに向う折柄、皆様のご健康をお祈りします。

熊谷道夫 (39 回生)
いづれも欠席で申し訳ございません。何とか元気で過しております。

佐藤藤助 (39 回生)
一昨年末に会社生活を卒業し、自由時間を楽しんでいます。年に6回は、老いた母の慰労も兼ね石巻へ帰省しています。三陸道も立派に拡がり、又仙石線も全線開通して、石巻の復興が感じられます。出席できず申し訳ありません。

佐藤真木男 (39 回生)
リタイアして3年、仕事はさっぱりと忘れ、絵画、スポーツ、年2回の海外旅行などを楽しんでおります。

阿部義治 (40 回生)
誠に申し訳ございません。先約の予定が入っており、欠席させていただきます。盛会をお祈りいたします。

岩崎久仁夫 (40 回生)
昨年から年金暮らしに入っており、終活、趣味いろいろとやらないと、いけないこと。やりたいことは多々あれど、思うようには進みません。ポチポチと

阿部 徹 (40 回生)
元気で現役を続けています。今回は既に予定があり出席できませんが、皆様のご健康を祈念しております。

高橋國一 (40 回生)
同期の樽澤君が病気治療中の事で大変心配しています。頑張れ!!

支倉 清 (40 回生)
自営で、まだ仕事をしています。カラダの続かきり仕事をしたいと思っています。世の中の迷惑とは思っていません。

萬代 玄 (40 回生)
現在の仕事はH29年6月で任期満了となります。仕事人生の総決算と思いきや、健康管理に注意を払っていることが、元気で過ごしている最大の要因となつて

いるようです。盛会をお祈りいたします。

牧野 孝 (40 回生)
学生時代に始めたボート(Rowing)を10年前に再開。当日はレガッタ参加のため、欠席です。ご盛会をお祈りいたします。

水澤純一 (40 回生)
折角のお誘いですが、出席できず申し訳ございません。現在、介護用品のレンタル会社で製品のメンテナンス業務を行っております。できることなら当社の製品を使うような状況にはなりたくないと想っております。

阿部芳郎 (41 回生)
建築の設計事務所勤めていたのですがリタイアし、年並生活を送っています。

遠藤栄松 (41 回生)
11月5・8日で大学同期会(秋田)と東松島参予定となつており出席不可となりました。よろしくお祈りします。

※8月31日、42年半の勤めを無事終えることができました。

亀山憲一郎 (41 回生)
昨年はお世話になりました。久々になつて友人、知人に会い楽しい一時を過ごしました。機会がありましたら、是非出席したいと思っております。

佐々木清 (41 回生)
いつも御案内を頂きながら欠席ばかりで申し訳ありません。今回の会報により、同期で同じ小・中学校を過ごした阿部政和さんの逝去を知り驚いております。

佐々木洋 (41 回生)
2年間続けたJTBIRO(経産省中小企業支援)を一旦休み、この8月から外務省 JICA パキスタン国政府援助プログラムに参加、同国イスラマバード、ラホール、カラチで自動車産業改善をてこ入れ中です。

伊藤信一 (42 回生)
非常勤教員として4年目をむかえてやっています。また、この日は競技会の審判を頼まれ、会に出席できず、誠に申し訳ありません。

伊藤輝昭 (42 回生)
私用に欠席します。来年、お会いしましょう!!

佐藤和光 (42 回生)
近々、石巻に戻る予定です(来年4月頃)。現在、石巻の家のまわりを改修中で時々状況を見に行っています。

鈴木卓郎 (42 回生)
当日、仙台で実家の姪の結婚式出席のため、欠席致します。

村上圭司 (42 回生)
残念ながら、所用のため欠席します。今藤幸一郎 (43 回生)
元気に過しています。今回は残念ながら出席できません。次回を楽しみにしています。

佐々木雄雄 (43 回生)
高崎市に住んで25年になります。現在は塾の講師として活躍しております。

若山栄一 (43 回生)
楽しみにしていました。急に都合がつかず、失礼致します。兄が幹事なので大変残念です。38回生小池泰臣、若山) 又、来年を楽しみにしたいと思っております。皆様宜しくお伝え下さい。

佐藤休三 (43 回生)
出席できず残念です。現在、県立高校で非常勤講師をしながら週末は近くの丹沢を歩いています。油断をせずとくに側面が太くなりしますので山を歩くように努めています。

矢野光雄 (43 回生)
西松建設(株)勤務を定年退職し(株)大洋に勤務して3年弱です。八丁堀で遊ぶのを楽しんでいます。

伊藤裕隆 (44 回生)
11月3月11日の大地震津波で、私の実家(門脇宇三)が全壊の被害を受けました。幸いにも当時81歳の母(幸子)は、東松島のやや高台にあるデイケアセンターに行っており、無事でした。私の弟(雅之)も仙台市立病院に行っており難をのがれております。現在、土地は売却し、母は私が引き取り、厚木森の里の自宅から分位の老人ホームで楽しく暮らしています。

伊藤哲郎 (46 回生)
伊藤の關係で今回は総会に出席できませんが、次回を楽しみにしておりますので、よろしくお祈りします。

牛渡 俊 (46 回生)
定年退職し、悠々自適の毎日です。

及川和彦 (47 回生)
ボランティア活動に参加しており、11/8も予定が入っています。自然環境保全の活動なのですが、石巻のように川があつて、山が見えて、田畑がある所が好きです。つい活動にも力が入ってしまいます。みなさんよろしくお伝え下さい。

千葉 太 (47 回生)
皆さまとの再会を楽しみにしております。

島山卓弥 (47 回生)
先約がございまして失礼させていただきました。今年も鶴岡緑会には行つて参りました。来年は還暦を迎える方が多いので、節目として皆で集まりましょうとのことでした。

加藤 博 (48 回生)
妻の親を介護で呼びよせるため、戸建に引越しました。

木村成 (48 回生)
会社の業務都合で出張のため、欠席とさせていただきます。皆様のご健康を祈っております。

笹森幸弘 (49 回生)
この度、7店舗の調剤薬局を経営していた会社を大手調剤薬局チェーンに売却いたしました。現在の役職は相談役です。週3~4日ゴルフをしており、

沼鏡拓彰 (50 回生)
門脇町の実家が被災してまもなく5年ですが、悲しみを克服するべく頑張っております。鶴岡緑会のさらなる発展を祈ります。

坂本正弘 (50 回生)
再び通動東京勤務に戻りました。4月より東京勤務に復帰いたします。

高橋建彦 (52 回生)
ご案内有難うございます。既に予定が入っており参加が叶いません。ご盛会を祈念致しております。今は走るよりも、ウォーキングで体力維持を図っております。

大内 浩 (52 回生)
当日、研究会のため欠席いたします。元気にやっております。

高橋建彦 (52 回生)
ご案内有難うございます。既に予定が入っており参加が叶いません。ご盛会を祈念致しております。今は走るよりも、ウォーキングで体力維持を図っております。

高砂淳二 (53 回生)
元気であり、うかがえます。残念ながら次回も欠席いたします。

永沢 進 (56 回生)
母の命守の祝いと重なってしまい、今回の総会を欠席いたします。

坂本正弘 (50 回生)
再び通動東京勤務に戻りました。4月より東京勤務に復帰いたします。

坂本正弘 (50 回生)
再び通動東京勤務に戻りました。4月より東京勤務に復帰いたします。

坂本正弘 (50 回生)
再び通動東京勤務に戻りました。4月より東京勤務に復帰いたします。

坂本正弘 (50 回生)
再び通動東京勤務に戻りました。4月より東京勤務に復帰いたします。



（ト）松崎隆とヒメア(67)

Table of Tokyo Gyorin Kai Officers: 会長 (33) 木村 貴則, 副会長 (33) 堀内 文夫, 監事 (29) 千葉 弘二, etc.

Table of Tokyo Gyorin Kai Staff: 事務局長 (兼) 事務局長 (33) 堀内 文夫, 事務局次長 (36) 菊地 潔, etc.

Table of Tokyo Gyorin Kai Members: 理事 (21) 青山 景一, 理事 (22) 鈴木 善治, 理事 (25) 阿部 剛, etc.

Table of Tokyo Gyorin Kai Members (continued): 19 菅原 潔 旧制 一, 19 村井 昭郎 旧制 一, 20 安住 重一 旧制 一, etc.

Table of Tokyo Gyorin Kai Members (continued): 29 千葉 弘二 女川一 柔道, 29 千葉 慶胤 渡波 一, 29 半澤 正義 赤井 ラグビー, etc.

Table of Tokyo Gyorin Kai Members (continued): 37 阿部 直哉 石巻 ヨット, 37 阿部 義夫 湊 野球, 37 遠藤 信雄 住吉 一, etc.

Table of Tokyo Gyorin Kai Members (continued): 38 中村 伸 門脇 剣道, 38 岩淵 格 石巻 バレー, 38 勝井 芳之 門脇 剣道, etc.

●御来賓者氏名 石巻高等学校 校長 小玉 卓夫先生, 鰐陵同窓会 (本部) 会長 青木 利光様 (43 回生), etc.

2016年の「東京鰐陵会第25回総会」は 11月13日(日) 12時→15時 東海大学校友会館(霞ヶ関ビル35階)お待ちしております!!!

[第2部 予告] ジャズボーカルを楽しむ Nov. Jazz Trio 出演= ジャズボーカル: 伊藤英司(鰐陵45回生), トランペット: 伊勢秀一郎(鰐陵46回生), ピアノ: 雷永真紀(石巻女子高卒)

◎東京鰐陵会公式ホームページを活用しよう。 http://www.gakuryou.com/ または「東京鰐陵会」で検索!

平成27年度 東京鰐陵会 収支報告書 自平成26年10月1日～至平成27年9月30日

東京鰐陵会 会長 木村 貴則 会計担当 早川 誠

Income Statement Table: 収入の部 (前期繰越金 460,065, 協力金 11,336, 運営資金援助 401,000, etc.), 支出の部 (会議費 12,601, 交通費・交際費 80,700, etc.), 収支の差額 274,294

Table of Next Period Balance Sheet: 現金 44,080円, 郵便貯金 193,194円, 銀行預金 37,020円

上記監査の結果、正確・適正に処理されていることを認めます。 平成27年 9月30日

東京鰐陵会では、役員や職員に必要となる会費を徴収せず、会員有志の寄付で運営されています。第24回総会に際しては、この会費の発行費用も兼ねて、ご支援を賜りますようお願いいたします。

Table of Tokyo Gyorin Kai Members (continued): 27, etc.

編集後記 昨年11月8日に開催された第24回総会の模様を報告することを目的として発行しました。紙面の中の会長の挨拶、同窓会長の挨拶、石巻校長先生の挨拶や講演内容、米寿代表者の挨拶等は、会場で収録したテープ録音からそのままだと再現しましたが、ご挨拶をいただいた方にはお断りせず掲載させていただきます。また、部会や出部できなかった方に総会の様子や雰囲気をお知らせするために、同期生が撮影した「総会」の様子を載せてみました。更に、総会参加の可否を連絡いただいた先輩に記載されていた出席者の近況報告をそのまま掲載させていただきます。総会で会えなかった同期の友人の近況を知ることができると幸いです。

計報 今回の総会開催案内の返信にて、左記会員のご過去の報告をお受けいたしました。心からご報告をお祈り申し上げます。